課題２－２　古道を歩き歴史を見つけよう

１　歴史の視点

歴史を学ぶにあたって，身近なところから材料を見いだし，教科書の通史的な叙述に味つけをしていくことは，生徒たちにとっても，教える教師側にも有意義なものと思われる。近年の中学歴史教科書には，地域の歴史を生徒たち自らが調べてみるという「調べ学習」の形で，地域史を重視する視点がうかがえる。

テキストの課題学習『古道を歩き歴史を見つけよう～古道を歩く楽しみ方～』は，それを踏まえて，取り組みやすい野外調査の一つとして，古道を歩く楽しみ方と実際の成果例を示したものである。

前もって，自分の勤務校周辺と生徒たちの通学圏内では，意識的に古道に足を運び，遺跡や寺社などの文化財，石造物の銘文などを見て，授業の動機づけや展開時の材料として使えそうなものを把握しておきたい。そして，千葉県史や市町村史誌などの文献にもあたっておきたいものである。その際，身近な公共図書館の郷土資料室などで，地域史関連の文献や古地図･新旧地形図を把握しておくことも肝要である。

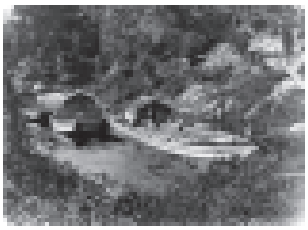
テキストでは，木更津市を中心とした西上総地域での古道調査から得た成果を実例として示した。掲載できなかったものもあるので，以下に若干紹介しておきたい。

２「久留里道」君津市俵田の道標

左は，1689（元禄２）己巳年に建てられた「江戸於か道」「江戸ふなみち」の表記がある久留里道の道しるべ。「於か道」は五井経由の陸路を示し，「ふなみち」は近くの小櫃川を利用して川船で木更津に出て，木更津船（五大力船）で海路江戸の木更津河岸へ向かうルートを示したものである。

【補足】

近世から昭和初期までは，養老川，小櫃川，小糸川などは重要な物資運搬のルートだった。房総から江戸までどのような物資を運んでいたのか，古い川船の写真を掲げながら，生徒に答えさせるのもよい。



小糸川の川船

３ 松本翁寿蔵碑

左は，1886（明治19）年に建てられた松本翁寿蔵碑。門前に久留里道の道しるべがある木更津市茅野善雄寺近くの古道脇にたたずむ。

篆額勝海舟，撰文中村正直，書日下部鳴鶴と幕末・明治の著名人の名が並ぶ。碑文の中に，津田塾大学創立者津田梅子の父津田仙の名も見え，歴史の広がりを感じさせ興味深い。

◆古道歩きの用語解説

篆　額	碑などの上部に篆書で書いた題字のこと。
寿蔵碑	その人物が存命中に建てられた墓碑。広い意味で，地方名望家や師匠など個人の功績をたたえて，関係者や門人がその人物の存命中に建てた石碑を指す。
頌徳碑	功績をたたえ後世に伝えるため，建てた石碑。
忠魂碑	忠義のために戦死した者をたたえ記念するために建てた石碑。
迅速図	明治10年代に陸軍参謀本部陸地測量部によって作成された縮尺２万分の１の地図。迅速測図ともいう。野外調査･地域史研究などでの利用価値が高い。
字	市町村内の区画の名称のこと。大字と小字があり，特に細かく分けた地域の呼称を小字という。地名の由来には歴史的背景があり，特に字名は歴史研究に有用。